

光りかがやく島・スリランカ



4月19日（金）飾磨橋東公民館で国際理解出前講座を実施し、16名が参加しました。講師は、スリランカ出身でフォトジャーナリストのブディカ・ウィーラシンハさんです。

ブディカさんの故郷、スリランカにはシンハラ人、タミール人、ムーア人などの民族が住み、仏教、ヒンズー教、イスラム教、キリスト教の4つの宗教が共存しています。講座ではスリランカの基本情報（人口、面積、通貨、首都など）、歴史の話から始まり、続いてシンハラ語の挨拶などの紹介がありました。最近、挨拶もシンハラ語の「アーユボーワン」（こんにちは）ではなく「ハロー」を使うことが多くなっているとの少し寂しいお話もありました。

そして、スリランカの学校の紹介では、生徒のみではなく、教職員にも制服があり、一時は廃止されたようですが、生徒親族や周囲からの強い反対意見があり、再び制服着用が復活されたとの話もありました。その制服はとてもカラフルな民族衣装の様なもので、毎日、それを着用しないといけないとなると教師の負担が大きいのではと感じました。

次に、スリランカでの結婚式の様子が写真、動画で紹介されました。きらびやかな衣装をまとった美しい新郎新婦の姿と、色とりどりのご馳走にうっとりしました。

また、受講者からの「スリランカの主な産業は？」との質問には、スリランカとい



えば「紅茶」と思われているかもしれませんが、「紅茶」は第3位で、1位は海外での家政婦や、ベビーシッターなど「女性の海外での労働」であると聞き驚きました。受講者からは、スリランカの経済危機や、内戦終息後の現在の様子などの質問も多く、観光や文化のみならず、現在の政治情勢への関心の高さも感じました。